

拝啓

今年も早や6月末、梅雨の気候の頃となりました。お元気でお過ごしのことと思います。いつもエンカウンターお読みいただきありがとうございます。わが家の道路に面した軒下に植えたスイトピーをかたづけまして、その後に夕顔を植えました。毎年朝顔を植えていたのですが、なかなか朝顔がよく成長しないので、今年は初めて夕顔にしてみました。また、毎朝散歩をする公園に大きなねむの木があり、いまふさふさとした薄紫のねむの花を木いっぱい咲かせております。ねむの木と言えば、皇后陛下の作詞された「ねむの木の子守歌」が有名です。

先月から、大島元村教会の牧師であった故相沢良一先生の「黒潮の神学」から引用、紹介をしています。今月のエンカウンターの最後に、南原繁先生と相沢先生が、船の上で映っている写真を載せました。南原先生は、昭和34年(推定)に、相沢先生に招かれて、大島に行き、講演をされました。その時東京へ帰る時の写真です。相沢先生は、「回想の南原繁」という本に「矢内原忠雄先生と南原繁先生」という題で両先生の思い出の文章を書いておられますが、その文章から、南原先生の思い出に関する部分を引用してみます。

「大島における矢内原先生と南原先生の講演は素晴らしかった。全島の先生方やPTAの父兄で元町小学校の講堂は立錐の余地もなく、いささか面目をほどした。矢内原先生も南原先生もいわゆる無教会に属しておられたが、そんなことにはお構いなく教会でもよいお話をしてくださり、ことに南原先生は波浮教会でもお話しをして下さった。...(矢内原先生の大島行きは、昭和33年5月) 南原先生には柳川館に泊って頂いた。まだ元町大火の前であった。先生は教会の謝礼の方の謝礼はおとりにならなかったもので、無理に収めて頂いた。南原先生は船で東京に帰られた。...爾来南原先生は我が黒潮の愛読者になられ、その都度、お励ましやご献金を頂いてきた。元町大火の際、先生はいち早く罹災者のためにと十万円ものお見舞いを送って下さった。亡き奥さんの形見の着物なども小包で届けてくださった。

矢内原先生と南原先生はまさに日本の光であった。筆者にとっては矢内原先生は畏敬、南原先生には敬愛ということばがぴったりする。今、南原先生の突然の訃報に接し、わが心に大きな穴が開いた寂しさを禁じ得ないのである。」

(「黒潮」1974年6月1日より転載)(『回想の南原繁』所収)

今年は、梅雨によく雨が降りますが、どうぞ御身体御自愛の程祈り申し上げます。

敬具

平成22年6月26日

山口周三

エンカウンターの読者各位